

すぐりのスグリヒゲナガハバチ（新称・国内新発生）

令和元年6月中旬に、恵庭市の家庭菜園において、栽植されたすぐり（グースベリー）の葉を食害するハバチ幼虫が認められた。当該幼虫は老齢時の体長は約15mm程度で、体色は淡緑色で刺毛基部は黒色、淡緑色の頭部には側面に黒褐色の縦斑、個体によってはさらに黒色の縦条を伴う。幼虫はすぐり上に併発するスグリハバチとよく似ているが、本種は刺毛の基部が黒色を呈すること、尾端に一对のトゲ状の肉質突起があることで前者とは識別が可能である。この幼虫は、飼育条件下で6月下旬には枯葉などに付着して黒褐色でやや粗い絹糸を伴う俵状の繭を形成した。発生地において、繭は樹上には発見できなかったことから、スグリハバチ同様に地表などで枯葉などに付着させて営繭するものと推察された。この繭からは、7月中旬から8月中旬に散発的に成虫が羽化した。成虫は体色が黒色で、前・中脚は乳白色、後脚は腿節、脛節の末端1/2～2/3が黒色であった。令和2年にも、ほぼ同じ時期に幼虫の発生が認められ、飼育条件下で成虫の羽化は8月下旬に認められた。次世代幼虫の発生は未確認であるが、本種は年間数世代を経過するものと推察される。

加害種は、道総研フェローの原秀穂博士らにより、スグリヒゲナガハバチ *Euura suguri* Hara & Iwasaki として記載命名された。

（中央農試）



すぐりのスグリヒゲナガハバチ（北見農試 岩崎 原図）